

令和5年度 第2回学校適正配置検討委員会 会議記録（要旨）

日時 令和5年11月7日（火） 午後4時30分～午後6時10分

場所 仙北市西木庁舎2階201会議室

出席 出席委員11名（欠席委員7名）

1 開会

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

4 議題

（1）角館小学校・白岩小学校の統合準備状況について（報告）

～事務局説明～

10月16日までに統合準備委員会が3回開催されていて、これまでの協議の経過を報告。

主な内容は、「統合時期は令和7年4月とする」ことや、「校名は角館小学校とし、校舎・校歌・校旗は現角館小学校のものを使用する」に意見がまとまったことなどを報告。

（特に質問等なし）

（2）学校適正配置計画（骨子案）について

～事務局説明～

前回会議で分かりづらいとの指摘があった「望ましい学校規模」の表記について修正案を検討した。

委員	市民意見交換会で多く寄せられた「1学級20から30人規模で複数クラスが望ましい」という意見が反映され、また、「ただし本市特有の地理的条件により通学等に配慮する」ことも明記されたのでよい。
----	---

委員長	修正案はこの内容で良しとする。
-----	-----------------

（3）学校再編シミュレーションについて

～事務局説明～

今年度内に計画（骨子案）をまとめ、来年4月からは、具体的な統合の組み合わせや使用校舎をどうするかを検討に入りたい。市民に学校再編シミュレーションを提示して意見交換しながら進めるため、その提示内容について検討したい。

なお、統合の組み合わせについては、可能性のあるすべてを試案として示したい。

委員	計画（骨子案）には、令和27年度までの児童生徒数の推計が記載されているが、再編はどのくらい先を見据えて進めるか。また、途中で見直すことは想定するか。
----	--

事務局	計画（骨子案）では、前年度の出生数をもとに予測できる概ね20年
-----	---------------------------------

先を見通した再編を行うとしているが、必要によっては途中で見直すことも考えられる。

教育委員からは、段階的に再編を進めることも視野に入れると良いとの意見もあった。

委員

再編は旧町村ごとの学校統合をイメージしている人が多いと思うが、統合後の児童生徒数の推移を示せば、もっと大きな統合を考えなくてはならないと感じる人が多いのではないか。

事務局

通学の負担を考慮すれば、低学年のうちは地域校（分校）として残す案も考えられる。

委員

通学の負担を考えれば、全市で1校に統合することは厳しいのではないか。そうした案も市民に示していくか。

事務局

文科省が示す適正規模に照らせば、本市の場合は1校に統合するのが適正規模となる。試案として提示していきたい。

委員

段階的に統合する場合、第1段階で校舎を改修して統合した後、数年後には使用しなくなるというのでは、費用面で疑問を感じる。

事務局

改修費は可否を含めて統合の組み合わせや使用校舎により異なる。
現時点で多数の統合パターン別に費用を見積もることは困難であり、まずは費用面は保留し、統合の組み合わせや使用校舎に関して市民の意見を聴きたいと考えている。
その先、ある程度候補が絞られたら、財政負担も合わせて検討していくことを考えている。

委員

児童生徒数が減少していく中で、地域校（分校）を残すことは必要か。

事務局

これも試案として示し、市民の意見を聴いていく。

委員

出生数をもとにした児童生徒数の推計値に対し、実際は出生後の転出などで、それより少ないように思う。

同じ学区内でも、子どもの学齢や居住地域によって統合に対する温度差をかなり感じる。そのせいもあって集会等では自分の意見を述べにくい空気があり、個々の意見を把握する方法を何か考える必要がある。

委員

いろいろな意見を拾い上げる工夫が必要である。
意見交換は、会場に行けなくても情報を知ったり、意見を発したりできる仕組みを考える必要がある。

5 閉会